



0 F  
3362

一 石部  
二 月部  
三 下  
四 部  
五 筋  
六 胎藏界  
七 五部  
八 四生  
九 十二因  
十 八古

Red seal impression

昭和十五年三月一日寄  
市島謙吉氏贈

門 7 6  
號 3365  
卷

一石の力人の事

二刀の事

三當万世の事

四久即元定

五筋の事

六胎蔵界

七五佛の事

八四生之事

九十二因縁之事

十八苦

十有為轉變

十一海之部



目録一

十三鳥之部

十四雉子ヲ解事

十八谷

廿十二酒

八四

廿五

六

五

四

三

二

一

孔子三行五常ノ後庖丁新理盛

物ヲ定ム陰陽和合ノ義ヲ以テ川ヨリ

沙汰ス然ニ鯉ノ鱗一通ニ三十六ナ

ラリ是ニツイテ三十六年ヲ先トス

皆佛法也妙經二十八品ヨリ金胎

ノ三法ニ同一代ノ御經六卷ニ御説

法也是ヲ三十六ニ記ス金剛界ヲ

表シ身身下胎藏界ヲ表シ兩身

下孔子三世ヲシテリ鯉モサレテ二十

六ノ鱗ヲ生シ目前ニ至古未賞説

也口傳有之

一石夕、三ノ事



右三身ノ如来无作ノニ

天地ニ時節アリ有為轉變也劫ヲ以テ謹ラシル刻ニテ時ヲニ時ニテ日ヲシル日ヲ以テ月ヲシル月ニテ年ヲシル年ヲ以テ劫減ラシル六十年二年一ツ減ニテ一室ト云也如是置ト云劫ヲ石ト号ス也庖

丁之專一也

一刃之事

虞舜ノ御代ニ水中ヨリ鯉刀ヲノミカケテサシ出タリ此刀ハ名モ无ク柄モナシ面ニ當一カ世為裡ニ色即是空空即是色ト有此八ノ字ノ心ヲ以テ先キ八寸ニシテ立啓九峯也柄ヲ鯉口ニツクル也ハ故也孔子末世ヲ条ニテ只刀ヲ八寸ニ定ラレ、刀ノ大小ハ劫減ニ付テ次第々也程口傳子一當一カ世為之事

一當ハサトリ也

一カ世為ハ法界ノ衆生惡ヲナシ

善ヲモナス遊カク遊フヲナスヲモ

即身成佛タルニ

一色即是空空即是色事

月西山ニ入給ハ日東山ニ出給フ

散花アバサク花モアリ法界

何レオラニヤ

一筋之事

孔子以前ハ筋ノ大小定ナシサレ

妙經二十八品ヲ以テ一寸ヲ一品ニ表

ス然レ天神六代ニ五佛御出世

ナレハ妙末々無明也孔子却滅

ハガリ末世ヲ祭レテ筋ノ丈チ一尺

八分ニ定給フハ

胎藏界ノ八百余ヲ以テリサレハ

一分一佛一尺百佛ナリ然ルニ八分

以テ八百余ヲト觀念也奉敬四

寸ニテツリ四寸ノ中ニ二十八刻ハ

妙經二十八品也奉敬四寸ハ天

王也或ハ胎藏界ヲ觀念ニ或妙

經二十八品ヲ寸ニ表シ寸ヲ刻ニ表

スヲ奉敬ト号シ二十八品ニ八卷

ヲ入刻三十六有ヘシ

一五佛之事

一ツ六 毘婆尸佛

二ツ六 尸棄佛

三ツ六 毘舍浮佛

四ツ六 拘那含佛

五ツ六 拘那含佛 已上

一四生之事

胎 ハラコシ

卵 ツブコ

滋 ウルヲイ

化 ハクル

右此外生物ナレ

一十二回縁之事

一無明

出入ノ息ヨリ母ノ腹ノ中ニテ一滴

ノ露ノ始タトハ土中ニ草ノ種ハ

アリナガラ其レ見ヘヌラユナリ

二行

日数行ニ随テノスカタ也

三色

其ノ躰ハ大形アリテ赤心ハナシ

四名色

眼耳鼻舌身意尽クタイヌ

トイヘトモ未母ノ腹ノ中ニアル也

五六八

六根スミヤカニ胎内ヲ出タルナリ

六六觸

キニアレナレハシメナリ

七受

ウクル

八愛

リヤウナク

九九

トル

十有生

十一老

十二死

已上

一八苦之事

生老病死

愛別離苦

求不得苦

怨憎會苦

五蘊盛苦

一有為轉變之事

木火土金水

木水火土金水

一海之部

實相台ノ大海ハ方便ノアミニニモ

又切モ切ラレ莫モ皆成佛也佛

法サカリヒテ神代教之昌也現受

無比樂後生清淨土也隨而庖丁



ノ和爾種を二扱之は八十八繪ニ  
書花ノ如シ真ハ真如實相也柳  
伊弉諾伊弉册ノ尊御鋒ヲ  
下界ヲロシ大海ヲサガシ給スハ下  
界迄化御タメ也其時御鋒ヨ  
リ一滴ノ露ヲチ淡路嶋ニ也此  
嶋ニ降化メ國土ヲ守護シ給フ故  
ニ路ヲ玉ホコト名付作ト云又海中  
ヲホカシ給ハ御鋒 ツイテ魚一ツ  
アガリケル鱗ナリ則庖丁ナシテ又  
海中ニ入シ給ハ一切衆生ノタメ也日  
本開闢ノ真十六陽魚凡名付給

其時意波ニキリニヒカツテヨリタル  
魚ヲエイレナルニ定カニ首尾ノ見  
サハ海月ト名付給フ又ヒカル月  
号海月ト書シ陰魚凡名付鱗庖  
丁ノ始ナシ海月料理ノ始也右神  
道ニテ孔子是秘シ筆ツタシ給也

一鳥之部

霍水鳥左右ヲヨリ庖丁ノ事  
陰陽和合ノ義也空ハ立ヲ陽ト  
シ地ヲリヌルヲ陰ト号ヲ二羽フシ  
ヲ重シテ和合ト表スカシラク骨三ツ  
ヲ三身如來ト觀念ス法界ノシ

サニク其カギリナシ何シカアタナラヤ  
サニ氏先ツ五穀成就第一也然ハ  
首ヲ骨三ツニ左右ノ羽ヲタテ五  
穀成就タルヘシム子ノ四ノ八十方佛  
土中唯有一衆法無二亦無三除  
佛方便說佛平等說如一味兩  
隨衆生性所受不同此文ヲ以テ  
但庖丁觀念是アリ  
一進ヲ足リ解事天智天皇  
御代也唐國ノ日記ハ大カタ處  
水鳥同前ノヨリ也但サキヤラ  
有大事口傳ナリ解事ハモロシ

ニ毛解キ作也足ヨリサクハ日本  
記ニ作也 已上

右四條家之秘傳堅秘々

- 茵部新兵衛
- 吉田五右衛門尉
- 茵部和泉守
- 羽田神右衛門尉
- 高橋権兵衛尉

北

上<sup>だん</sup>流<sup>こ</sup>床<sup>こ</sup>三<sup>が</sup>幅<sup>に</sup>一<sup>に</sup>対

梅<sup>はな</sup>花<sup>はな</sup>  
雞<sup>とり</sup>中央<sup>ちゆう</sup>  
竹<sup>たけ</sup>花<sup>はな</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>ら

の<sup>の</sup>き<sup>き</sup>も<sup>も</sup>床<sup>こ</sup>乃<sup>の</sup>内<sup>うち</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>全<sup>ぜん</sup>

五<sup>ご</sup>重<sup>じゆう</sup>は<sup>は</sup>う<sup>う</sup>七<sup>しち</sup>二<sup>に</sup>重<sup>じゆう</sup>

五<sup>ご</sup>重<sup>じゆう</sup>

二<sup>に</sup>重<sup>じゆう</sup>

二<sup>に</sup>重<sup>じゆう</sup>

南

新<sup>しん</sup>色<sup>しき</sup>

又<sup>また</sup>美<sup>み</sup>  
下<sup>した</sup>作<sup>さく</sup>橋<sup>はし</sup>三<sup>さん</sup>分<sup>ぶん</sup>

下東

何事と金流花々

こまんとらう

あつりあ

さんるん

こまひ

まろと

こさー

あま

一八日流る中よ蓬葉の巻

あつりこ

こめり

そらあ

んん

ろすま

金流

上西

や

あのおき切金のことろ

式三献

ほかお

三ツ盆

若の巻

ほかお

二

ほかお

ほかおうら

ほかお

三

ほかお

こたへ上松

ほかお

与

龜甲

さしやく

六

二

はが

ん

はが

三

はが

あ

はが

あ

はが

の

はが

二

はが

あ

はが

あ

三

はが

あ

はが

本郷

調りりころら てう ちりり てあか

ちりり てう ちりり てあか

ちりり てう ちりり てあか

二

ちりり てう ちりり てあか

ちりり てう ちりり てあか

ちりり てう ちりり てあか

三

ちりり てう ちりり てあか

ちりり てう ちりり てあか

ちりり てう ちりり てあか

ちりり てう ちりり てあか

ちりり てう ちりり てあか

ちりり てう ちりり てあか

ちりり てう ちりり てあか

ちりり てう ちりり てあか

ちりり てう ちりり てあか

ちりり てう ちりり てあか

ちりり てう ちりり てあか

ちりり てう ちりり てあか

ちりり てう ちりり てあか

御饗膳五本立之次第

十二合のたて地

うき  
くじ  
ひん  
くも  
ふか  
くぬ

何れも此のたて地  
何れも此のたて地  
何れも此のたて地

わらわらたのたて地

重

このたて地  
このたて地

重

純子

瓶子

おんおん

提

三重

くぬ

重

あか  
うた  
ひん  
おん

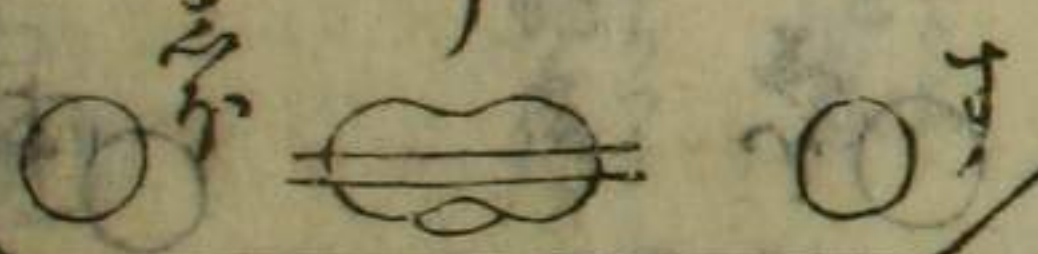
右のたて地のたて地

式三献

海月

魚

梅子







御二

角盤  
ろり  
ろり

松盛豆羹  
作露

角盤  
ろり  
ろり

右本郷食松成之郷管に四方相坐の松  
とあつる也但しこの松とあまの松  
ひまひゆは可なり

御三

塩漬  
あうが

うま甲盛  
このけしひのり

酒びそ  
かきまをん

右三平立の時の房とて最乃此湯は初  
と持以陰陽のついでと初と列立の膳  
とのつと用と色汁とのつと  
つと口傳とすし

御五

前物

御のち

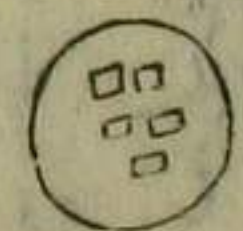


舟

いさやの汗

いさや

いさや



御五

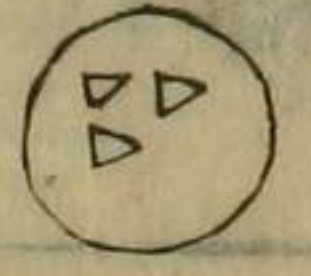
舟

船盛

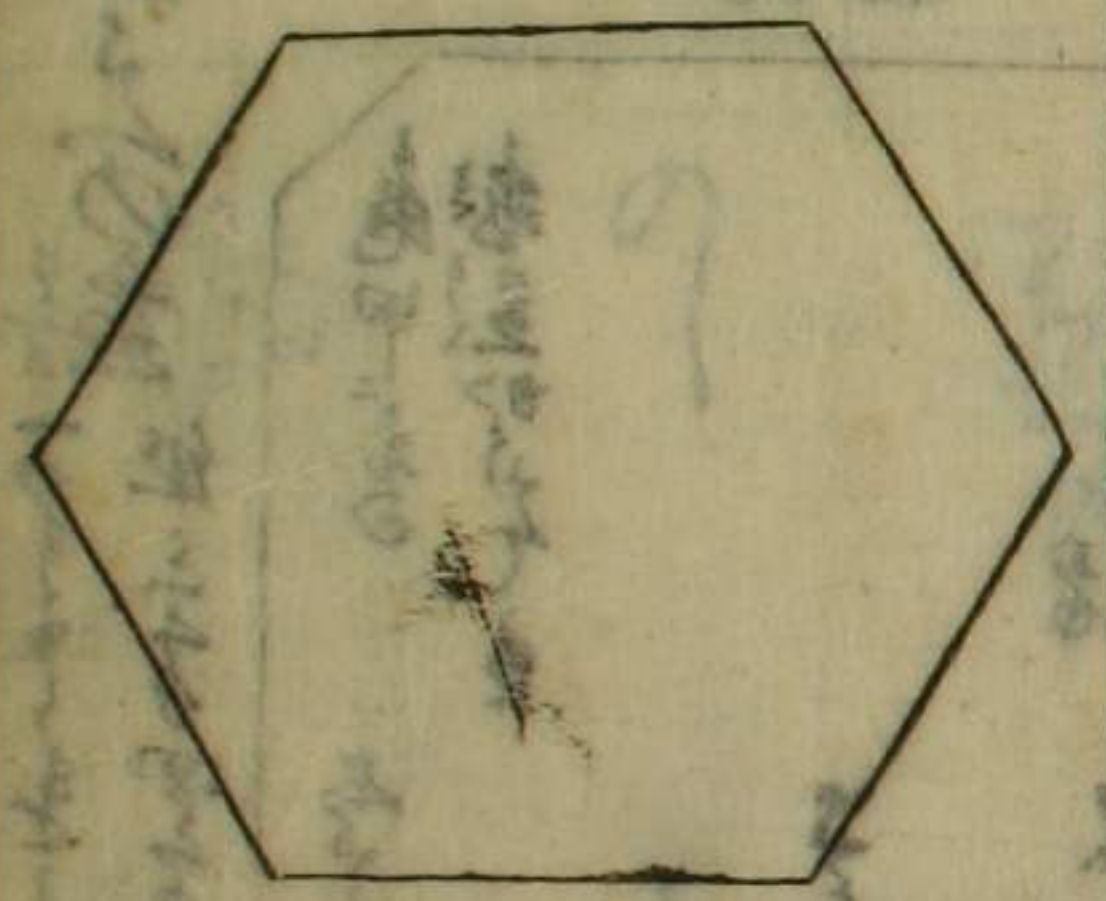
いさや

いさやの湯

いさや



いさや



いさや  
九種十二種  
龜甲の湯  
むきい  
いさや



おまののりもきつ柳の也 他右は茶

献物

しんひのこうがたてみつ

赤粉  
白粉  
膏

膏餅

一献

ニク切月の物  
汁四あり

ほぐの物

鮎取

二献

ニク切月の物  
汁四あり

ほぐの物

きり

ニク切月の物

引替五乃服

塩汁 物め やす物

あまの世 山湯付 著

如の物 け へん

二

た 心 汁 集

うさめ 龜足

今 汁 期

三

酒さけひて

煎物せんぶつ

汁じゆ膏こう

み  
龜かめ豆まめ

おぢん

分

汁じゆ鯉り

与

やさ名な

汁じゆ膏こう

二に分ぶん  
二に分ぶん

かかみみ

汁じゆ膏こう

二献

い	ひ	す
い	ひ	す
い	ひ	す

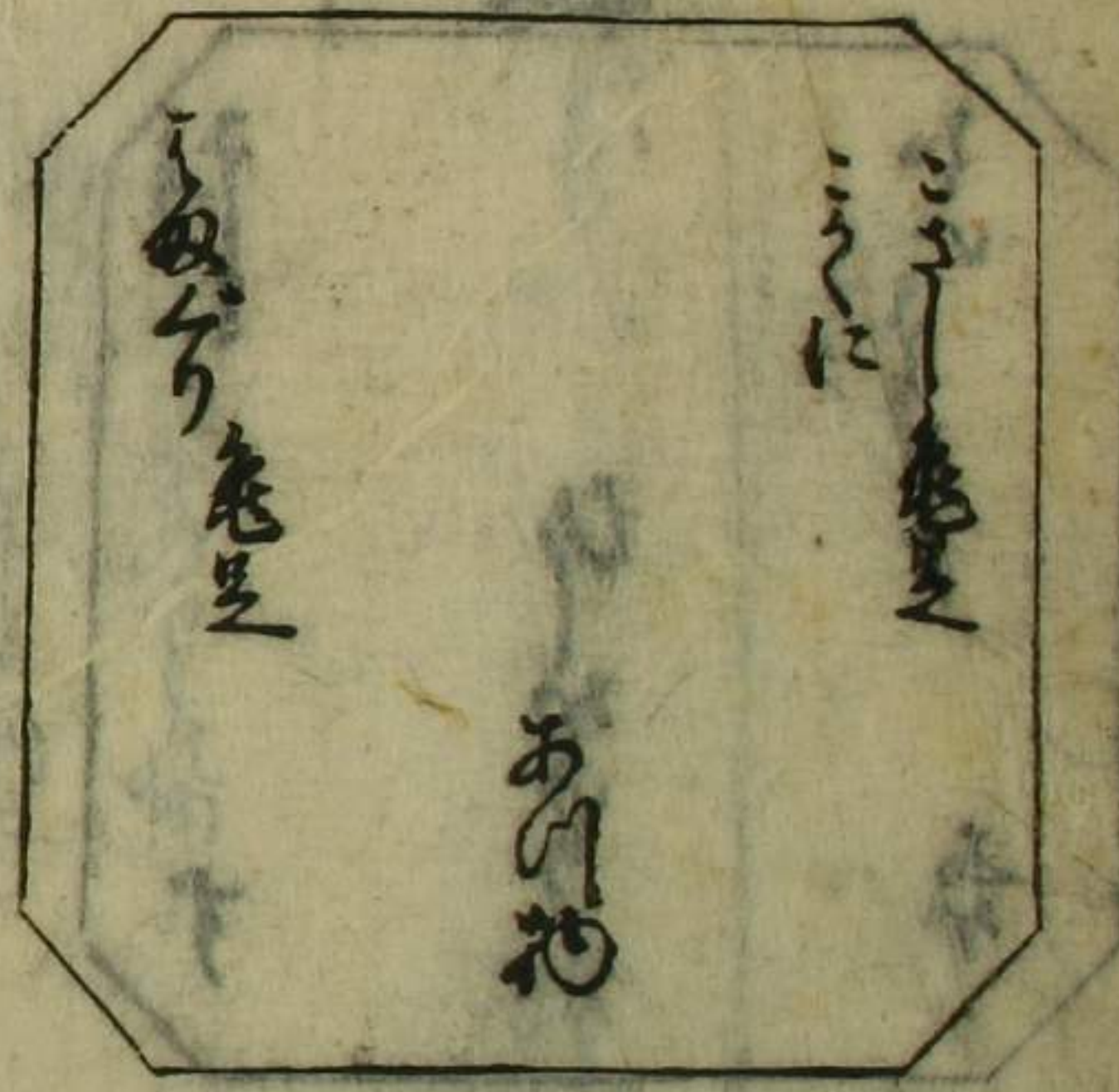
献初

い	ひ	す
い	ひ	す
い	ひ	す

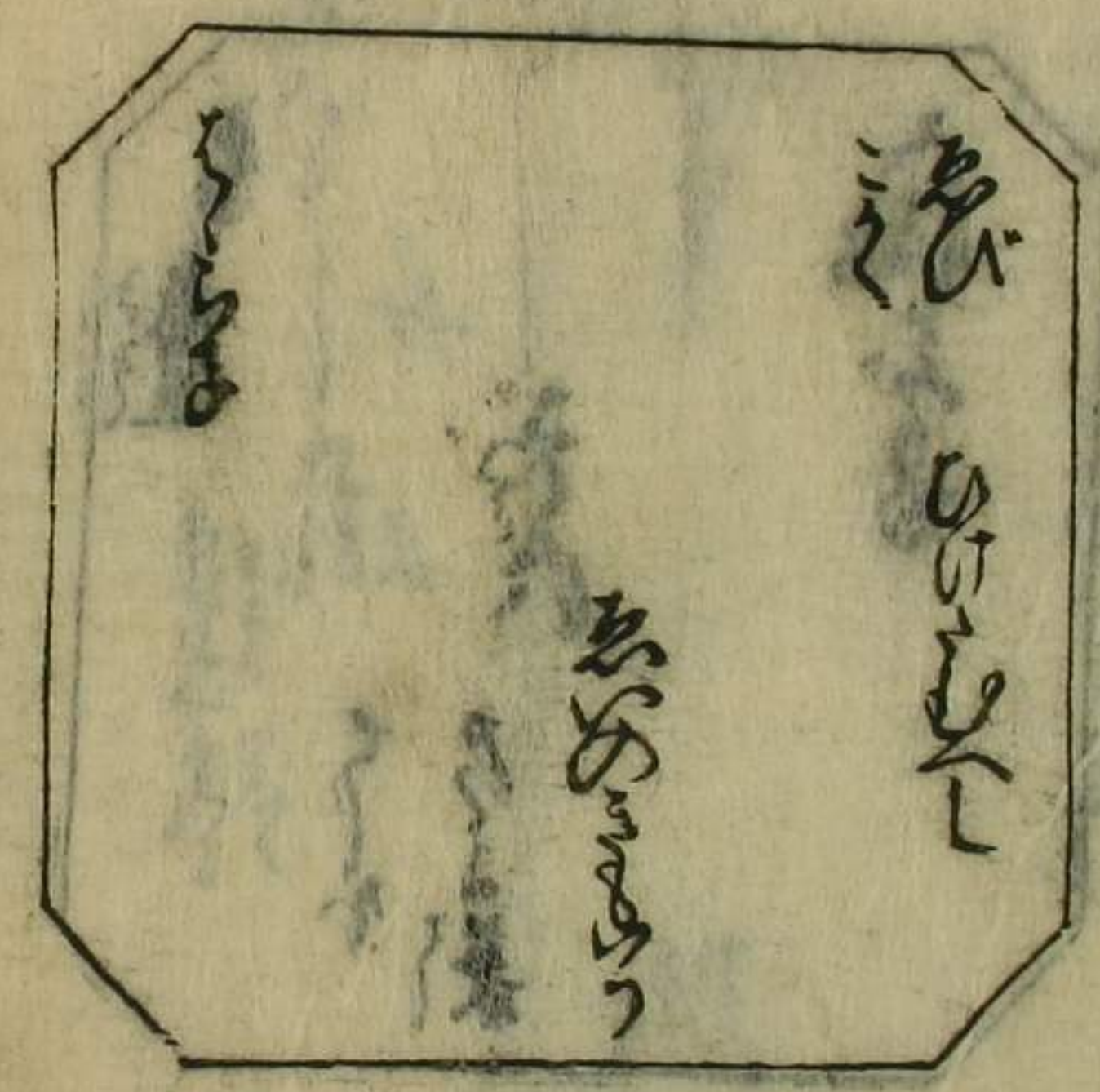


い	あ	い
い	あ	い
い	あ	い

献三



献五



与献



水子箱持り、是金作

右四條家秘傳也

だんえり、二重、共

二 面一尺四寸 土居一尺

三 面一尺三寸五分

五 面一尺三寸



一上乃龜の甲壳さ二寸五分

もらひの高さ一寸九分

一ト乃龜の甲壳を磨き八寸二分

ぬらひの高さ八分

一ト乃だめのおりては二寸二寸

ぬらひの高さ八分さうのぬらひは

かきみせやうにすまふ

一上乃盤の幅あり右のぬらひは

のさうしきさうふいぢんのさへを

二重

一上乃龜のうらふ寸五分さうのさ

一寸九分

一ト乃だめ面の厚さ八寸二分ぬら

ひの高さ八寸

一ト乃うらふ高さ二寸二分以下ぬら

ひ八寸二分ぬらひの高さ八分同うら

高さ四寸二分

一ト乃だめぬらひは九寸もらひの高さ

二寸二分

一ト乃壳の厚さは二寸二寸もらひぬら

八分同下の是乃高さ一寸九分付様

十文字右のあらは平云身のさう

まじりのうらひはゆらぎ海也

一 淨くろし 龜のくろし寸五分  
牛糞食乃糞

一 高さ五寸上りいり五寸下りせい  
さす寸三分

沖鳥の巻

一 面長二尺二寸同横一尺八寸の高さ三寸  
寸重飛乃まろし同是の高さ四寸八分

沖鯉の巻

一 長さ一尺二寸奥成よう八寸高さ三寸  
分他そこ二寸七分よびゆ  
親子乃巻

一 長さ二尺五寸横一尺八寸

式三献乃巻

一 長さ二寸六寸寸尺も如く油様  
よ沙は是角

一 名らの内二寸三分是乃をさす寸

龜の甲

一 面の長さ三寸五分ゆり尺の寸  
十二合乃打

一 尺八寸是ハニツをとり他たは  
下文字他六寸乃時六九寸

新家渡物

一 番水二火三牛四賊五鍋六米七

家七八鼓具九小兒十貝足十一酒

十二主人

右四條家秘傳書也

茵紅新去流尉

吉田五右衛門尉

茵紅和泉守

小田神左衛門尉

高橋權兵衛尉

高橋玄左衛門尉

寛永十九年

午 五月廿一日

中村十右衛門尉

